

特集「スマートタウン」の発行に寄せて

小 西 宏 和

国連では2015年に持続可能な発展を目指していくための目標であるSDGsが採択され、わが国では目指す未来社会の在り方として超スマート社会、Society5.0が2016年に提唱された。内閣府の第5期科学技術基本計画によれば、「超スマート社会」とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」と定義されている。

しかし、現在の日本は人口減少、超高齢化、インフラ老朽化、地方衰退、自然災害の頻発など様々なディスラプションに直面している。特に人口減少、少子高齢化の加速による、労働力不足や、それに加えた都市部一極集中と地方衰退は、地域における人と人のつながりの希薄化を招いており、「生き活きと暮らす」ために乗り越えるべき最大のディスラプションと捉えて良いであろう。

また、第4次産業革命で、すべてのモノやヒトがインターネットにつながり、ボタン一つ押せば、わざわざ外に買い物に出なくても、自宅に必要なモノが届く。人とのコミュニケーションも対面でなくても、あたかも空間を超えているかのように、会話をすることができる。SNSから個人の情報が吸い上げられ、AIにより個人の嗜好やニーズが分析され、必要な情報が自動的に提供される。そこにはこれまでになかった新たな価値創出があり、新たなビジネスモデルも多く生まれている。しかし、人が人とフィジカル空間でつながる機会を減少させたことも間違いない。

今回は、「超スマート社会」の実現に向け、IT企業であるわが社が情報技術を活用することで、人の多様なニーズや課題を解決し便利さを追求するだけではなく、人と人がサイバー空間とフィジカル空間の両方でつながり、永続的に幸福に暮らすことができる世界を創り出すプラットフォームづくりが重要であるということをお伝えしたい。

かつての日本の地域の姿を思い出してほしい。サザエさんのようなアニメのワンシーンを思い出してもらっても構わない。近所の人に会ったら必ず挨拶を交わし、隣近所にお裾分けをしたり、長期留守にする場合は荷物の受け取りをお願いしたり、困ったときは地域で助け合うという習慣が日常的にあったのではないか。古き良き日本の習慣がまだまだ根付いている地域もあると思うが、多くの地域でコミュニケーション機会は減少し、地域で助け合う習慣は希薄化しているはずだ。

そこで我々はICTサービスを用いて、“助け合い”を活性化し、地域の持続的成長に寄与すれば、人が永続的に生き活きと暮らせる世界を創ることができるのではないかと考えている。

この概念に「Air Tasukeai」（通称 AirT[®]（エアティー））と名付けた。「AirT」は「無くても困らない便利」ではなく、生活空間（Air）を飛び越え、「困っている状況を人と人との助け合い（Tasukeai）で解決する世界を意味する造語である。なぜ「助け合い」という概念を強調しているかという点、心理学や幸福学の分野では、自分にとって嬉しい活動（それは束の間の嬉しさをもたらす）よりも、他人の幸せを考えた慈善活動の方が永続性のある満足感が得られることが実証されているからである。

この「AirT」というブランド名のもと、「助け合いを便利にする」をブランドコンセプトに掲げ、様々な地域の課題や生活者の課題を解決するサービスを束ね、超スマート社会の実現を目指したいと考えている。街で困っている人を見かけた時に、「知らない人に声をかけるのは恥ずかしいな」「断られたら嫌だな」「逆に迷惑だと思われなかな」このような思考が頭をよぎった経験がある人も多いのではないだろうか。前述の通り、フィジカル空間での人とのコミュニケーション機会が減少したことで、見知らぬ人に自ら声をかけ、手を差し出すことに抵抗を感じる人は多いだろう。人間は自分が保有する資源を他人に与えることによって幸福度を高めようとする性質がある、つまり本来人間は誰しもが利他の心を持っているとされているが、現代の外部環境がその心を表に出すことを阻んでいるのだ。

我々はそういった抵抗感をICTサービスで払拭していきたいと考えている。まずはサイバー空間で人と人がつながり、助け合う機会を創出し、フィジカル空間での実行行動を喚起する。そのようなサイクルを地域に根ざしたかたちで活性化させていきたいと考えている。我々がもつこのヴィジョンに対し、共感してくださる顧客やパートナー企業と連携し、彼らもつサービスやアセットの展開をサポートしていくことで、自然とビジネスエコシステムが形成され、持続的な地域の経済成長にも寄与できると考えている。

また、人の価値観は多様化しており、日々変化していく。もちろん地域の状況や課題も日々刻々と変化していく。突然の外部環境変化によって新たな課題が生まれる可能性も大いにあるだろう。しかし、人の幸福の本質は変化しないはずである。永続的な幸福をもたらす「助け合い」の対象や手段が変化することはあっても、「助け合い」が生む幸福は不変であるはずだ。常に、外部環境とそれによって生じる変化に目を向け Foresight し、求められるエコシステムを生み出していくことで、古き良き日本人の心を取り戻し、幸福で豊かな生活を実現していきながら、ディスラプションを乗り越えていった先に超スマート社会の実現がある。

（常務執行役員）